

新年号

酪農とちぎ

迎春



新雪舞う烏山境橋

明けまして
おめでとう
ございませす

皆様には家族おそろいで
希望に満ちた新春をお迎え
のこととお喜び申し上げます。
す。

組合におきましては、い
よいよ「那須高原支所・C
S新設」が始動します。

本年もよろしく

お願い申し上げます。

元旦



新年のあいさつ

代表理事組合長 前田 忠利



平成十六年の輝かしい新春を皆様と共に迎える事が出来ましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年末に足利銀行が破綻し、一時国有化の報道は県民に衝撃を与えました。一〇八年の歴史の命脈を絶つことになり、栃木県の経済界に大きな不安を与え連鎖的影響が心配されます。国、県の適切な対策を望むものであります。

WTO農業交渉は、カンクン閣僚会議二次案に各国の不満が続出し、日本は十ヶ国と共同修正を発表するも決裂、包括合意は先送りとなりました。又、メキシコとの

FTA交渉も決裂となり、国際協議の難しさを表しています。しかし、今後も日本の畜産や酪農等農業経営が成り立ち、新鮮で安全な食品の供給が出来る様主張し合意を願うものであります。

昨年の生乳の需給は、四月～六月は順調でしたので、夏の需要期は十四年度以上の需給逼迫を予想していましたが、予想に反し冷夏となり、生乳需給は一転緩和となりました。九月以降は天候も回復したので、以後を期待しましたが、十月以降も振るわず加工向けが多くなり、過剰ぎみの脱粉在庫量の更なる上積みとなり、適正在庫の二・一倍にも達し年度末には更に上積みが予想されます。十六年度の計画生産は下方生産案も検討されています。本州各県の生乳生産が恒常的に減少する中で、更に生産意欲を削ぐ様な減産生産方針は

考慮が必要と思います。大消費地を抱える関東乳販連として、十分なる議論を尽し適切な方策を打出すべきと考えています。この様な

状況で、十五年度の飲用乳価交渉は残念ながら据置きとなりました。八頭目のBSE患者が本県で発生致しました。患畜出生農家は、

調査や報道関係者の質問等に大変な思いと経験をしたと思います。本組合としても、発生農家に適切な対応や支援の取組みをする為、

『BSE対策本部』を設置し努めて参りました。今回は二十三ヶ月齢と若齢で、しかも雄牛で非定型的BSEと判定されました。しかし全頭検査を実施し、検査に合格した牛肉だけが販売店で売られて居り、牛肉は安全と云う事が認識され牛肉の消費は変わらず、酪農畜産への影響もなく安堵いたしました。一刻も早く原因の究明を行ない安心して酪農経営が出来る様願うものであります。

家畜排泄物法が施行され、糞尿処理の環境整備が求められる中、施行猶予期限も本年十月末日と迫っています。簡易な施設でも対

応が可能ですので、組合にご相談の上適切に対処される様お願いいたします。

合併後三年目の事業も第4四半期を残すのみとなりました。冷夏と云う厳しい試練もありましたが、計画達成に向け努力致しているところであります。合理化計画につきましては、地域組合員の皆様のご理解とご協力を戴き進めて参りました。更に、CSの合理化に伴う那須高原CSの新設並びに支所建設をするにあたり、県当局のご指導と黒磯市を始め関係市町村のご支援を戴き、CSは補助事業で建設出来る様準備を進めているところであります。県南支所建設につきましては、地域合理化検討委員会の中で検討協議して真岡市工業団地内の適切な候補地を選定の上県南支所を建設し、合理化を進めて参りたいと存じます。又、組合事業の中で組合員一体となつて努力して参りたいと存じます。関係機関の皆様のご指導と組合員の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。



年頭のあいさつ

栃木県知事 福田 昭夫



酪農とちぎ農業協同組合の皆様、
あけましておめでとございます。

昨年十一月、県の中核的金融機関である足利銀行の一時国有化という、衝撃的な事態が発生いたしました。私は、いまだに驚きであると同時に非常に残念でなりません。県としましては、県内経済への影響を最小限に食い止めるため、直ちに中小企業向けの緊急セーフティネット資金の創設などを行ったところではありますが、今後とも、全力を挙げて本県経済並びに県民生活の安定に向けた取組を進めて参る考えであります。また、昨年は、本県産牛で初めて、全国で八例目となる牛海綿状脳症（BSE）が発生し、「非定型的なB

SE」と判断されたことから、関係者に大きな衝撃をあたえました。県では、食肉となる牛や二十四ヶ月齢以上の死亡牛の全頭検査などBSE対策を着実に実施してきたところであり、幸いにして風評被害や畜産物の市場価格に大きな影響はありませんでした。これは、酪農とちぎ農業協同組合を始め関係者の冷静な対応のお陰と感謝しております。県では、これからも安全・安心な畜産物の提供に努めてまいりたいと考えております。さて、本年は、私が知事となつて三年余が経過し、任期の仕上げの年を迎えました。この間、二十一世紀初頭の県政の基本指針として、「とちぎ21世紀プラン」を策定するとともに、そのスタートに合わせ、本県独自の政策経営手法「とちぎ政策マネジメントシステム」を導入し、県民参加による自主的かつ計画的な県政経営に努めて参りました。

また、県民主体・市町村重視を基本とした県政経営を進めるため、情報公開の徹底、審議会等における委員公募制の推進、パブリック・コメント制度の導入、ブロック別市町村長会議の開催など、あらゆる機会を捉えて様々な御意見を頂戴して参つたところであります。おかげさまで持ちまして、子どものための病院や思川開発事業、東大芦川ダム事業などの懸案に一定の方向性を打ち出すとともに、乳幼児医療費助成対象の拡大や本県独自の少人数学級の実現などを図ることができました。現在、地方自治体にあつては、本格的な地方分権の実現に向けて、自己決定・自己責任に基づく自立した行政経営が求められているほか、三位一体改革や市町村合併などこれまでの自治体の仕組みの根本的な見直しが行われています。こうした中、私は、非常に厳しい行政環境に対応して新行政改革大綱(改訂版)に基づく不断の行政改革を進めるとともに、本県の持続的な発展に向けた道筋をしっかりと示すことで県民の皆様が夢と希望を持っていただけよう、昨年、自立と自助、そして互助による幸福の追求である「分度推譲」を基本理念とした

県政の長期ビジョン「とちぎ将来構想」を策定いたしました。今年はこの構想の中で掲げた「自みずから」をみかく、「絆(きずな)をつなぐ」、「風(かぜ)をおこす」という三つの行動指針と四つの戦略テーマで描く二十一世紀の「とちぎ」づくりを実現していくため、県組織の見直しを行うほか、次期総合計画の策定にも着手していく考えであります。また、四年目を迎える「首都圏農業推進計画21」に基づき、家畜ふん尿処理対策を始め酪農家の経営安定のため畜産生産基盤や流通コスト削減のための基幹施設の整備を積極的に進める考えであります。さらに、十七年十一月には、全国最大の酪農の祭典である第十二回全日本ホルスタイン共進会栃木大会「とちぎファームフェスタ2005」の開催が予定されており、本県の酪農がより一層、躍進するための一大イベントと考えておりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。年の初めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、平成十六年が酪農とちぎ農業協同組合の皆様にとって幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。



新年のあいさつ

青年部本部部长 渡辺 透



新年明けましておめでとございます。平成十六年の新春を皆様とともに迎えることが出来て大変うれしく思います。さて、日ごろより部員の皆様には青年部活動並びに各種事業に対してのご理解とご協力を頂きまして誠にありがとうございます。また、組合役員を始め組合員の皆様におかれましては、も常日頃、青年部に対しての温かいご支援を賜りましたことに、厚く御礼申し上げますとともに、これからもご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。二〇〇三年を振り返って見ますと、やはりわれわれ酪農家にとっては厳しい一年であったように思われます。死亡牛の全頭検査が始まり、安全と思われていた三十ヶ月齢未満の牛二頭がBSEと断定され、衝撃を受けたのは

記憶に新しいところです。また、糞尿処理対策問題、生乳需給不均衡問題等、我々の生活を直撃する問題が山積している状況ではありますが、一致団結して問題解決に当たりたいと思います。

さて、青年部の活動も支部、本部、共にこの一年で活動内容が固まった様に思います。本部では、ソフトボール大会・ボウリング大会・視察研修・各種発表大会への参加・講演会・講習会、そして、後継者と女性との出会いの場を創る為に開催した出会いふれ愛の会、支部活動はそれぞれの支部の特徴を出した活動が行われて来たようです。例えば、バーンミーティングや視察研修旅行等々、個々の支部の活動が活発に行われてきました。また、来年十一月に開催される栃木全共に向けて、いろいろな活動が企画されることかと思えますので、それらのことにも青年部として積極的に参加をして行きたいと思っております。昨年は青年部活動の骨格が作られた年であり、十六年度はその骨格に肉をつける年になろうかと思えます。より一層中身の充実した一年にしていく為に、部員はもとより組合全体のご支援をお願いいたします。新年の挨拶とさせていただきます。皆さん今年も、安全で安心して飲めるおいしい生乳生産に頑張りましょう！

女性会本部部长 今 克枝



新年明けましておめでとございます。皆様にはお健やかに新しい年を迎える事と存じます。

女性会も、組合長を始め皆様方の温かいご支援とご指導の下、発足から二年が経過いたしました。会員の皆様方のご理解とご協力により、少しずつ充実してきたこと、嬉しく思っております。支所、支部単位の活動が主で、なかなか一堂に会する機会を得られませんでしたが、昨年十二月に、立松和平先生をお迎えしての全体研修会を実現できましたことは、大きな喜びでした。年度始めに女性会として、環境整備に努める、「家族経営協定の締結に取り組む」という二つのテーマを掲げました。安全、安心が枕詞のように語られる今、消費者の方々のそれらへの関心が非常に高まっています。経営スタイルはそれぞれに違っても、目指すところは同じです。それは買っていただけ

る、飲んでいただける生乳を生産するところにあります。そのためにも、牧場環境、生活環境を整備し、明るい気持ちで生産に取り組んで行きましょう。今や、女性の時代とか女性が経営を左右すると言われる時代です。どうもお世辞ではなさそうです。それならば、自分を高める努力もしなければなりません。経営のパートナーとして、組合から配布される資料等、丁寧に読み直し、数倍に増えた管理事務もこなさなければなりません。訳のわからない言葉にアレルギー反応が出そうになりながらも、理解していかねければなりません。そのため勉強会があってもいいような気がして来ます。働く時には働く、しかし趣味を楽しむゆとりも見せる、それが酪農を良い形で伝えることになり、頑張っている後継者への応援につながると信じています。居ながらにして世界の情勢がわかると言われる酪農、幅広くいろいろな事に関心を持って前向きに頑張りましょう。会員の皆様はじめ、組合員の皆様にもご意見、ご指導としてご協力をいただきながら進んで行きたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。本年もまた、希望を持って頑張れる一年でありますよう祈りつつ、ごあいさついたします。

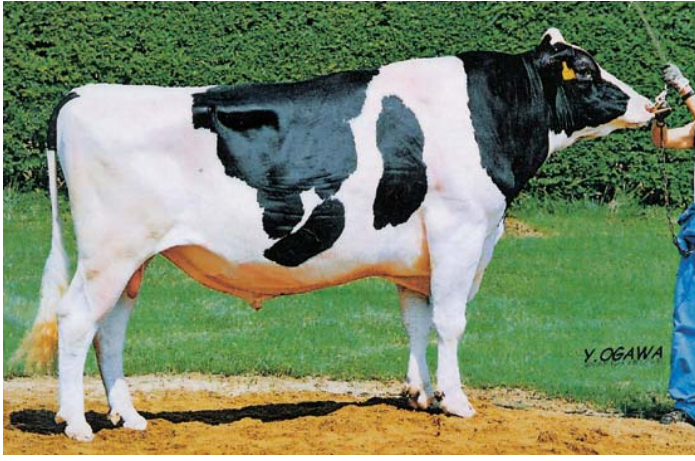


後代検定済種雄牛誕生

「キクイチ ワイズ シエルパ」

この度の後代検定において、菊池一郎氏生産牛が優秀な成績を収め検定済種雄牛として選抜されました。本県では、平成元年に仲丸征三氏（西那須野町）のアルトラタネリー ブーマー以来十四年ぶりの快挙であります。

本牛は、北海道 堤俊明牧場か



ら導入した「ベリーエフ ウッド プリテイーET」の産子であり、父牛はイーストビュー インフル エンス マティGであります。実績のある母系からの産子であつた為、評価成績が判明する前に国有候補種雄牛の計画交配の対象牛として選抜されました。

平成十年十一月に「シエルパ」は国有候補種雄牛として、家畜改良センター十勝牧場に買い上げられました。その年の候補種雄牛は全国で四十二頭でした。

平成十一年七月には、育成期間を経て、一次選抜に合格し後代検定用精液生産を開始しました。同年八月、候補種雄牛三十頭（都府県産六頭含む）に、家畜改良センター生産の五頭を加えた三十五頭が国有候補種雄牛として11後代検定に参加しました。

平成十五年十一月「シエルパ」

は娘牛三十頭に達し、改良力に優れた成績を収め後代検定済種雄牛として選抜されました。（NPT 三十二位）

なお、11後代検定で最終選抜された種雄牛は三頭であり、都府県からは「シエルパ」一頭でした。

本牛の特徴

- ・能力と体型のバランスの良さ、
- ・脂肪率の改良に期待できます。
- ・体型面では、骨格の強さ、体積
- ・乳用牛の特質、尻幅の改良に期待
- ・乳器では、前乳房の付着の強さ
- ・後乳房の強さ、幅の改良に期待
- ・できます。

- ・乳用牛評価報告（二〇〇三 十一月）では、決定得点第二位、乳器第五位、体積第二位、外貌第二位です。

検定済種雄牛の中でも、体型改良はトップクラスの実力を持っています。

精液は十二月より配布されています。今後「シエルパ」の娘牛が活躍することを期待しております。

モンゴル大統領 「那須高原 今牧場」を視察

効率的な畜産システム づくりへの協力を要請

十二月七日、モンゴル国のバカバンディ大統領と夫人らが、同国畜産の振興を目的に、那須町高久（大同）の（有）那須高原今牧場の視察に訪れました。



前列中央 大統領夫妻



衛生的乳質の改善にご努力をお願い致します。

十一月の乳量及び乳質成績は6ページのとおりです。

酪農部

立松和平氏(作家)を迎え酪農とちぎ女性会全体研修会



十二月八日、ホテル東日本宇都宮に於いて酪農とちぎ

女性会全体研修会が開催されました。女性会発足以来、会員が一堂に会する機会として初めての試みであり、会員他約百七十名が参加して講演が開かれました。講師に本県宇都宮市出身の作家、立松和平氏を迎え、「日本の農業を語る」と題して講話をいただきました。そのなかで「農業は生命産業である。特に、牛という大きな生命に寄り添い、人間が消化できず



球上に沢山ある草を牛に食べさせて乳と肉を得る酪農は、緻密で文化的な営みである。」と酪農にもふれ、語り尽せない程の豊富な経験と見識に基づき、朴訥とした栃木訛りの講話は、時に笑いを誘い、一方で大変力付けられ、素晴らしい研修会でありました。

研修会終了後、懇親会が開かれ、更なる親睦交流を深める楽しいひと時を過ごしました。

中国青海省農牧庁 畜牧獣医学会より視察

十二月十二日、中国の青海省より、畜牧獣医学会訪日代表団の生徒及び教員が、ふれあい牧場を視察しました。

今回の視察は、畜牧獣医学会訪日代表団の来日に伴い、中国青海省と南那須町は友好都市締結を行なっている、南那須町より、ふれあい牧場の施設等の視察を依頼されたものです。

家畜市場成績

平成15年12月 (単位: 円(税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 十五日	ホルス雄	153	-	136,500	2,940	43,955
	F 1 雄	74	-	183,750	19,950	110,477
	F 1 雌	73	-	110,250	2,310	59,162
館林 十七日	ホルス雄	23	67	62,000	11,000	52,739
	F 1 雄	18	68	161,000	80,000	130,722
	F 1 雌	27	69	129,000	9,000	84,926

12月ホクレン初妊牛市場成績

(単位: 頭, 千円(税込))

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~ 350	351 ~ 400	401 ~ 450	451 ~ 500	501 ~ 550	551 以上
豊富	12月4日	513	488	11	36	92	159	118	97
釧路	12月10日	251	464	9	12	64	106	55	5
根室	12月11日	604	476	5	25	116	281	159	18
十勝	12月16~17日	718	532	3	25	44	107	214	325
北見	12月18日	421	473		25	122	165	85	24
合計		2,507	493	28	123	438	818	631	469
前月		2,978	479	56	207	627	1,082	710	296
前年同月		2,343	438	176	372	757		286	



理事会だより

十二月度理事会

報告事項

(一) 組合員加入について

(二) 資金貸付について

(三) 十二月份生産者支払乳価について

(四) 部門別委員会報告について

(五) 井戸掘削業者選定について

協議事項

(一) 十一月度事業実績について

(二) 需要期生乳出荷奨励制度

(案) について



春夏秋冬



平成十五年を振り返ってみますと私たちの身近にも大きな出来事が幾つかありました。昨年の主な出来事を拾ってみました。

BSE陽性牛が一月に二件和歌山県と北海道で確認された。

四月から死亡牛の全頭検査が実施され、ようやくBSEの騒ぎも落ち着いたが、八頭目となるBSEが発生(十月六日)、県内の生産・育成牛と分り組合はその対策に追われた。

さらに一ヶ月後広島県に九頭目が発生。

黒磯市のブリチストーン工場でタイヤの原料となる資材の火災が発生

(九月九日)、二日間にわたって黒煙が黒磯市の空を覆った。

足利銀行経営破たん(十一月三十日)のニュースが流れた、突然の出来事に県内の企業や多くの県民が戸惑いとともにその対策に追われた。

ロビンソン百貨店が閉店(十月一日)した。上野デパート・西武デパートにつづく閉店となった。

かわってFKDインターパーク(六月)や長崎屋(十一月二十二日)がオープンした。

高根沢で暴走族の集団リンチ事件(五月七日)発生。

市町村合併問題は、各地で合併の枠組み調整等の課題が発生、南

河内町では住民投票が行われた。

酪農とちぎ県北地域の拠点となる、那須高原支所及びCS建設の大綱が決まる(十一月)。

那須だいき牛乳新発売(六月二十五日)滑り出しは好調だったが、全国的な消費停滞のありを受け苦戦を強いられる。

生乳生産は、異常気象等で北海道を除き多くの府県は低調に推移。

衆議院選では、組合推薦候補が全員当選。また、地方選挙には酪農とちぎの組合員より十三名の方が立候補され全員当選、各市町村にて活躍されております。(W)

編集後記

毎年毎年異常気象と言われる昨今、何に対して異常なのか分からなくなってきた。温暖化? 大西洋の塩分分布が変化? 海面上昇? そもそも地球の長い歴史の中で気候は一定でなく、恐竜が絶滅したように色々な変化がありました。その長い歴史からすればこれらの異常気象はたいした異常ではないのかもしれない。

しかし、最近の地球温暖化に起因する異常気象は、人間の手によって二酸化炭素などをばら撒いた結果によるものです。人間が作った原因ならば、人間としてこの異常気象を問題視し、地球の住人として責任をとらなければならないのかもしれない。正月だけにグローバルに書いてみました。雪不足に悩むスノーボーダーの愚痴でした。

